

長崎北病院 伝言板 7月号

令和6年7月1日発行

7月。文月(ふづき、ふみづき)。7月7日の七夕に詩歌を献じたからと言う。風流。しかし、現実はまだ梅雨空。その後、7月3日ごろからは真夏の暑さとか。うちわに風鈴、蚊取り線香では太刀打ちできそうにない。しっかりエアコンを利用しましょう。織姫(こと座の一等星ベガ)、彦星(わし座の一等星アルタイル)は夜空で静かに会っていただいで、私たちは涼しい室内で

願い事をしましょう。横着 😊



病院が消えた

コロナがじわりと増えてきました。どうも夏と冬に2回、感染の波が来るパターンが定着したようです。今は夏の波の入り口でしょうか。世の中では少し増えているなという程度の捉え方ですが、病院では急激に増えています。若い人、健康人にとってはコロナは風邪程度、場合によっては無症状。さらに、以前のように検査や受診をしなくなっていますので、実態が分かりづらくなっています。現実はずっと広がっていると思います。感染に気づかず、患者さん、家族、職員などを通じて病院に持ち込まれて広がっているのでしょう。病院は高齢者、免疫低下など感染弱者の集まりです。感染すると亡くなったり、重症化したりします。何とか夏の波が小さく済ませられるように感染防御、拡大抑制にご協力をお願いします。もう一度 感染対策を思い出しましょう。



先日 佐世保で180床の病院が破産したというニュースがありました。全国ニュースでも報じられていました。長崎でも数十床規模の病院が入院病床を廃止したり、閉院したりということは

ありましたが、180床規模の病院がいきなり倒産という話は聞いたことがありません。長崎では初めてではないでしょうか。6月20日に破産申請し、外来は25日までで中止、入院患者90名は全員転院ということです。急な話です。職員も数日前までは知らなかったとのことで、報道で初めて知った人もいるとか。

患者さん、ご家族も大迷惑ですが、140名の職員もいきなり露頭に迷ってしまったわけで悲惨な話です。何故に倒産したのかは全くわかりません。負債総額は約11億7千万円だそうです。何とかならなかったのでしょうか。



当院は199床。倒産した病院と同じぐらいの規模です。他人事ではありません。病院が倒産するとすれば 患者さんが減って赤字になるか、最近では職員が集まらずに人手不足倒産もあります。当院は199床ですが職員数480名です。180床で職員数140名というのはあまりに少ない。人手が足りずに営業できなかったのかもしれない。病院・医院がどこも安泰だったのは昔の話。今は病院も潰れる時代です。病院も時代、人口構成、周囲の状況、需要などにより変わっていく、変える必要があります。同じことを漫然としていては時代遅れ、取り残され、消えていきます。さらに順調に同じ仕事をしていても、2年毎に行われる診療報酬改定により翻弄され、いじめられます。今年6月に行われた診療報酬改定で当院は昨年と全く同じ仕事をしていても収益は半分になります。ご無体な話です。全国的な看護師不足も足を引っ張ります。某公立病院も看護師不足で6割程度しか稼働できないと言います。

当院でも十分ではありません。もちろん看護師の就職促進、離職防止に努めるのは当たり前です。しかし需要に対して絶対数が足りない時代が続きます。複数の職種で業務を分け合うタスク・シェアや業務の一部を、ほかの職種へ移管または共同化するタスク・シフトなどを各職種で考えていく必要があります。病院も変わらなくちゃ/変えなくちゃです。でも変わらないのが楽なのよね。(S.A.)

